



# 分子イメージング連携特別講義



## 認知症とプリオン様異常タンパク質

長谷川成人 博士

公益財団法人 東京都医学総合研究所

認知症・高次脳機能研究分野長

多くの神経変性疾患には、病気を定義づけるような特徴的な異常タンパク質病変が認められ、その分布や広がりや症状と強く相関することが示されている。病変を構成する異常タンパク質はアミロイド様線維構造をとり、自身を鋳型にして同種の正常タンパク質を異常型に変換するプリオン様特性を有していることがわかってきた。アルツハイマー病や様々な認知症疾患脳に蓄積するタウ、パーキンソン病やレビー小体型認知症脳に蓄積する $\alpha$ シヌクレイン、前頭側頭様変性症やALSの変性細胞に蓄積するTDP-43などの代表的な細胞内異常タンパク質の生化学、細胞生物学的解析をもとに、疾患の部位選択性や進行性のメカニズム、さらには診断、治療法への展開について考察、議論したい。

日時: 平成27年5月28日(木) 16:00-17:30

場所: 医学部5号館6階リフレッシュルーム

\* 長谷川先生は平成26年度 新学術領域研究「脳タンパク質老化と認知症制御」(祖父江 元代表)における計画研究を担当されています(A02-2「タンパク質の老化基盤と病原性タンパク質の伝播機構」)。

連絡先:

医学系研究科・機能薬理学分野教授

谷内一彦(717-8056)

サイクロトン・RIセンター教授

古本祥三教授(795-7801)